

平成 31 年度岡山市市民協働推進モデル事業 最終評価表

実施団体	NPO 法人オカヤマビューティサミット	協働部署	こども福祉課	記入日	令和 2 年 3 月 12 日
------	---------------------	------	--------	-----	-----------------

1. 事業の目標と達成状況

目標	目標に対する現在の状況と今後の対応（目標に対する最終の状況と自己評価）	ESD・市民協働推進センターより
<p>講習参加数、講習合格率をあげるための具体的な工夫</p> <p>ー 参加者への対応等の具体的なもの</p>	<p>●現状</p> <p>18名の申し込みがあり、面接より6名の受講生を決定。8月に自己都合より1名辞退、最終試験を4名受講し全員合格。1名は病気療養中のため後日追試験を実施予定。</p> <p>●工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクーリングを欠席した場合は補習で補い、全員参加できるようにした。 ・LINE グループで参加者同士の仲間意識の醸成と、相互サポートできる体制を整えた。 ・個別での質問にも適宜対応し、受講生の意見を踏まえ、復習用の動画を作成し配布した。 <p>●評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集数に対して応募多数だったことから、エステや美容という資格取得が、シングルマザーにとってニーズのある分野だということが分かった。 ・講座初期に1名の辞退者があったこともあり、シングルマザーの個々の状況を聴きながら丁寧なサポートに心がけた。子育てと仕事と講座の両立で挫折しそうな受講生もあったのだが、相談等このりながら励まし、復習ができる動画を作成・配布するなどして、個々のモチベーションの支援に努め、相互の信頼関係を築きながら進められた。「就労支援講座」では、シングルマザーの状況に寄り添った支援が必要不可欠だと感じられた。 <p>●今後の対応</p> <p>次年度事業においても、「個別状況に合わせた丁寧な支援」を実施する。</p>	<p>【相互理解の原則】</p> <p>団体が市の制度について学んだり、協働部署が事業実施の場に見学に出向くなどして、団体のミッション及び協働部署の方針に対して徐々に理解を深めた。</p> <p>【目的共有の原則】</p> <p>団体と協働部署とが理想とする社会状況について共有し、その実現のための仕組みについて検討、一定の方向性を示した。検討に伴い、適宜スケジュールや目標の軌道修正をしながら進められた。</p> <p>【対等の原則】</p> <p>定例ミーティングの場で役割を確認しながら進められた。いずれかに役割や責任が加重にならないよう状況を確認しながら、引き続き進めたい。</p>
<p>就職に繋げるための具体的な工夫</p> <p>ー 参加者や企業への働きかけ等、具体的なもの</p> <p>ー 子育てと両立し経済的自立ができる就労をどのような形で考えるか</p>	<p>●現状・工夫</p> <p>11月：企業あてに、返信用封筒同封の上、講座への理解とシングルマザーの求人を募り、8社17名の求人希望を得た。</p> <p>12月：受講生に就職・転職に関する要望等についてヒアリングを個別に実施し、本人が希望する「自立」の目標を聴いた。</p> <p>2月：求人希望企業の紹介も含め、就労に向けた個別面談を実施した。</p> <p>9月～：別事業で実施している「チャレンジサロン」の見学希望者を募集し、実際の接客の様子を学ぶための就労研修を行った。</p>	<p>【自主性及び自立性尊重の原則】</p> <p>一定程度の相互理解と目的共有がなされて以降は、双方積極的に意思表示し、各々の専門性を活かしながら進められた。</p> <p>【公開の原則】</p> <p>定例ミーティングの場でのこまめな状況共有のほか、SNSでの情報発信に取り組んでいた。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価 <ul style="list-style-type: none"> ・受講生の現在の就労の状況や今後の就労への希望、重視したい条件などを個別ヒアリングで丁寧に聞くことができた。仕事へのこうした状況を企業側に伝えることで、シングルマザーの仕事と子育ての両立への理解を促していくことができると考える。 ・2月から具体的に就労につなげるための個別面談を実施するが、受講生の生活や仕事の状況にも変化がみられ、直ちに就労につながるとは限らない受講生もあり、継続的な支援が必要であることも判明した。 ● 今後の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・就職が決まるまでの間、チャレンジサロンでの研修を行う(技術を忘れないため)。 ・就労だけでなく、定着を支援していくことが必要であり、次年度モデル事業で、初年度修了生への就労・定着支援を含めることとした。 ・単に就労ができたかどうかだけでなく、収入が増加したか、あるいは子育ての時間の余裕が生まれたかなど、暮らしの水準のステップアップや具体的な自立を測ることが必要なため、次年度モデル事業にその継続的な評価を含めることとした。 	
<p>賛同企業数</p> <ul style="list-style-type: none"> － 何社程度をめざすか － どのように開拓、募る予定か 	<ul style="list-style-type: none"> ● 賛同企業の数：目標 20 社に対して 12 社 ※「賛同企業」とは、就労先・物資人材支援先を示している。 ● 工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・11月：102社に、返信用封筒同封の上、講座への理解とシングルマザーの求人募集を募った。 → 9社17人の求人希望を得た。 ・10月：ももたろうまつりへの出店にあたり、企業に協力要請した。 → 賛同企業として、3社5人が参加した。 ・講座趣旨等の説明を丁寧に行い、1社から講座で使用する用品の提供を受けた。 ・オカヤマビューティサミットのボランティア活動での支援企業とのミーティングにて、開拓を図った。 ● 評価 <ul style="list-style-type: none"> ・目標数は超えていないが、シングルマザーの雇用に関する求人ニーズは高いことが分かった。 ・オカヤマビューティサミットからの企業への案内に対する「企業側からの応募状況」を確認したところ企業側の雇用ニーズもあることが分かった。 ・オカヤマビューティサミットのつながりを生かし呼びかけができた。 ● 今後の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組方が一定の成果をあげているので、次年度においても引き続き実施する。 ・また就労後の企業側へのヒアリング等を行うことで本事業の効果を上げるとともに企業との信頼関係を高め、賛同企業の拡大につなげる。 ・チャレンジサロンでの活動を通じて、就労支援体制を整えると共に、社会に対してシングルマザーの就労に対する理解について普及啓発をすすめる。 	

<p>教育訓練講座としての認可、またはSIBの仕組みづくりによる一般施策化に向けて必要になること。団体が事業の中で取組まなくてはならないこと。</p>	<p>●現状</p> <ul style="list-style-type: none">一般施策化に向けた就労支援講座としての市独自の認定等支援制度をつくっていくための調査事項、基準づくりなどを検討し、一定の方向を出した。団体：事業を通じて「①講座へのニーズが高いこと」「②雇用ニーズがあること」を明らかにした。「③受講生の講座満足度が高いこと」と「④就労実績」については、次年度と併せて評価する。一般施策化に向けて講座の有効性を明らかにするには、修了生の就労定着率や所得向上等の計測が必要であり、単年度での一般施策化が難しいことが明らかとなった。 <p>●今後の計画</p> <ul style="list-style-type: none">次年度モデル事業の中で、指定講座制度の有効性、ビューティサミットの講座の有効性、指定講座の基準づくり等の検討を進める。教育訓練講座として独自指定するためには、講座自身の非営利性や安定性、自立性ととも、受講生及び修了生のサポートが必須だと考えている。知識・技術・資格の習得だけでなく、就労と家庭の両立支援などにおいても、他団体との連携によるサポート体制を構築していく。公的補助金頼みではない安定的な支援講座の運営体制を確立するために、チャレンジサロンの稼働率を高め、財政基盤整備に取り組む。現在、別途検討が進められている「子どもの貧困解決のアライアンス」の枠組みの中で、ひとり親支援の取り組みを計画している。	
<p>現段階でのスケジュールの進捗確認 ー 予定も含め</p>	<p>2019年 4月 チラシ作成 5月 募集開始 / 商材提供企業探し 6月 受講希望者の面接を実施し受講生を決定 6月～2020年1月 講座実施 テキストでの自宅学習と実技スクーリング 7月～12月 開講式および実技スクーリング 全7回 10月 岡山市市民協働企画総務課提案のイベント出店 11月 就労に向けた受講生の意向ヒアリング/事業への賛同及び求人について企業へ案内</p> <p>2020年 1月 講座最終修了テストの実施・修了式 1月末～ 就労のために個別面談等実施 3月現在 修了生の希望する企業とのマッチング中</p> <p>●今後の予定</p> <p>今年度と同様に、4月半ばから募集を開始予定。</p>	
<p>今後の状況確認の仕方、 会議のタイミング</p>	<p>●現状</p> <p>会議は隔月開催を基本とし、必要に応じて臨時開催した。 メールで意見交換などを適宜行った。</p> <p>●今後の予定</p> <p>会議は毎月開催を基本とし、適宜メール等で意見交換する。</p>	